

東はりま甲南会報

第25号

発行
東播磨甲南会

[事務局]
〒675-0017
加古川市野口町
良野365-11

行政書士澤本事務所
澤本武司 気付

TEL 079-421-1747
FAX 079-439-2842
E-mail
sawamoto@gyosei.or.jp

コロナに負けるな!!
力を合わせて、この難局を
乗り越えよう!!

こちらのQRコードから
東播磨甲南会のHPが
ご覧頂けます



東播磨甲南会
会長 三宅 隆宏
(有限会社共立サービス会長
経営学部 昭和41年卒)

2月の加古川「知」を結ぶプロジェクト成果報告会は、今年も加古川市庁舎と甲南大学をリモートで結び開催された。

このコロナ禍、中止しても何処からも非難されることのない環境下でよくぞ英断を持って実行、6年連続の火を灯してくださった岡田加古川市長、中井甲南大学学長に心から感謝します。

最優秀賞(加古川市長)、優秀賞(甲南大学学長)に続いて東播磨甲南会賞が発表された後、表彰に対するお礼と取組について学生の挨拶があった。

東播磨甲南会受賞挨拶の後半女子学生が涙ぐみことばにならなかった。一瞬、私の時間が止まった。キッと発表会の今日までいろんな想いが頭をよぎって感無量になったのだらう。

東播磨甲南会選考委員が選んだチームはゼミチームと違って学部が違う混成チームだった。チームワークが最も必要とされる成果発表、加古川というまったく知らない地で会ったこともない人に色々聞き取り調査し提案する。学生にとって色んな難題があったと推測する。

彼女の涙は私たちに改めて学生たちの苦勞を深く考える機会を与えてくれた。ありがとう！
厳しく鍛えられたこの経験は社会に出て大きな力になるだらう。



PS. 当日の様子は私のYoutubeでも配信しているのぜひご覧ください。



学校法人甲南学園
理事長 長坂 悦敬

東播磨甲南会の皆様には、卒業生相互の親睦はもとより、甲南ファミリーのネットワーク強化の活動、甲南大学学生の地域連携教育へのご支援など、日頃よりたいへんお世話になっていること、心より感謝しております。

コロナ禍収束の兆しが見えず、また、世界の複数の地域では大規模な紛争が起こり、まさに不確実性の時代が到来しています。しかし、私たち甲南人は平生眞三郎先生の言葉、「正志く強く朗らかに」の意味をよく理解しています。たとえ逆境にあるときでも、正義



甲南大学 同窓会
会長 丹羽 一郎
内外電機株式会社
代表取締役社長

東播磨甲南会の会員の皆さま、平素は大学同窓会の活動に多大なるご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

一昨年から新型コロナウイルスの感染拡大により、緊張感の中で大変な毎日をお過ごしのことと思います。昨年10月24日開催の「オール甲南の集い」は、同窓会活動が休止を余儀なくされる状況が続く中、活動テーマ「時こう！変革の種子」に沿い、日本の大きな時代の転換点といえるテーマ「コロナ禍」と「東京オリンピック・パラリンピック」を軸に、2年連続のオンライン配信となりましたが、多くの同窓生に参加

いただきました。甲南大学同窓会の2022年度の活動テーマ「Your Mark」(オン・ユア・マーク)新しい出発位置について！は、オリンピック等の国際的な陸上競技大会で使われ、最近では小学校の運動会の合図でも用いられています。甲南大学同窓会が「法人化」を目指す2022年度の新しい出発にふさわしいテーマだと考えています。

コロナ禍の収束がまだ見えない中、平生眞三郎先生の訓を胸に、この難局を一九となって乗り越え、母校と同窓会相互の発展に寄与していただける活動を目指したいと思っております。

東播磨甲南会の会員の皆さまが、今まで以上に三宅会長を中心に力を合わせ、貴会が発展されることを祈念申し上げます。

入会のご案内

- 目的…甲南大学同窓会の東播磨支部として、本部及び大学との連絡を密にするとともに会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的とする。
- 入会資格…甲南学園卒業生で加古川市、高砂市、加古郡及びその近郊に在住、勤務。
- 入会金…終身会費1万円(初回のみ)
- 入会方法…総会時受付で申し出て頂くか、直接事務局へ。
- その他のご負担…総会・行事毎に参加者からその都度会費(実費)をいただきます。

東播磨甲南会 役員組織 (R2~R4年度)

顧問	渡邊 東(S40経営)	〈総務委員会〉
会長	三宅 隆宏(S41経営)	委員長 岩崎 泰央(S62法)
副会長	大庫 良一(S54経営)※筆頭	副委員長 藤原 武彦(S60経営)
	中尾 知也(S50法)※総務担当	〈地区委員会〉
	松本 浩一(S49文)※広報担当	委員長 井奥 貴子(H3経営)
幹事長	栗山 隆博(S62文)	副委員長 丹後 昌博(S54法)
会計	榎谷 有美(H3経営)	津田 裕昭(H20法)
監事	西尾 淳(S39経営)	〈広報委員会〉
	籠谷 紘義(S40経営)	委員長 新濱 義孝(S62理)
同窓会 本部理事	富居 雅人(S62文)	副委員長 富居 雅人(S62文)
事務局長	澤本 武司(H6理)	森 正英(H26FS)

事務局
〒675-0017
加古川市野口町良野365-11
行政書士澤本事務所 澤本武司 気付

東播磨甲南会
TEL 079-421-1747
FAX 079-439-2842
E-mail sawamoto@gyosei.or.jp

編集後記

パンデミックがなおも続いており、各種行事は基本的にリモートでの実施がメインとなった年だった。現代は人々が飛行機などで世界を行き来する時代であるため感染症が想定外で広がったが、インターネットの発展などもあり、感染症に限らず実に様々なものが人類全体で共有される時代になったことを強く感じる。
我々も思考を柔軟にし、新しい考え方などでも試行錯誤して取り込んでいきたいものである。(M.M)

2022年総会・講演会の開催について

日時 ● 令和4年6月4日(土) 総会 ● 午後5時～
 場所 ● 東播磨県民局「かこむ」1階 講座研修室 (加古川町寺家町天神木 97-1) 講演会 ● 午後5時30分～
 講師 学校法人甲南学園理事長 長坂悦敬
 テーマ (仮題)「甲南大学の現状と将来像について」

参加費 ● 無料

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、飲食を伴う懇親会の予定はありません。
※会場入室時には、マスクの着用及び手指消毒にご協力をお願いいたします。

加古川「知」を結ぶプロジェクト 行政×大学×地元メディアによる 地域の課題解決

令和4年2月19日(土)、加古川市役所新館にて加古川「知」を結ぶプロジェクト成果報告会が開催された。

【当日の様子・参加者】

本年度も昨年に続き新型コロナウイルス感染症の影響があり、一般参加なし、オンラインでの開催となった。



【発表内容】

岳ゼミは、こども政策課様に「加古川市スマート情報発信システム・システム構築と効果的な情報発信手法の確立」を提案した。
利用者が加古川市の子育て関連情報に素早くたどり着ける「Me」のシステムを構築するという内容で、情報系のゼミならではの提案だった。

講評では、非常に分かりやすい発表だった。専門性を活かした形で解決されようとしており、非常に興味深く拝見させていただいた。ツイッターの分析が良かった。という意見があった。

岡村チームは、ゴミ減量推進課様に「生ごみから始まる循環型社会×コンポストタウン加古川育成プロジェクト」を提案した。

加古川市のゴミの現状を分析し、特に量の多い家庭系ゴミ減量のため「コンポスト」を用いるという内容で、持続可能な社会を構築するために長期的な展開を視野に入れた提案であった。

講評では、オンラインで迫力が伝わってきた。連合チームだがお辞儀もピタリと合っており好印象を受けた。中間発表ではまだ不安のあった長期的な計画が改善されていた。という意見があった。

望月ゼミは、市民活動推進課様に「未来に羽ばたく加古川かわまちづくり」を提案した。

これは昨年度から継続されている加古川の「川」に着目したプランディングの提案であり、水辺の空間を活用する各地の事例を踏まえ、賑わいの空間を如何に作っていくかという発表であった。

講評では、非常に参考になる研究成果だった。子供からお年寄りまで幅広い世代に来て頂きたいので、若い世代の意見というのは感性も異なりとても大事だと考えている。目標を高めるストーリー

性のある提案で良かった。という意見があった。

金坂ゼミは、政策企画課(シティプロモーション)様に「未来のための魅力あふれる街づくり」アウトドアで育つまち「加古川」を提案した。

加古川の自然を活かしたアウトドアで、若者、子育て世代を対象に、子供たちを外遊びさせられる場所が多いことを目指していくという内容だった。

講評では、アウトドアに視点を置かれたというのがとても良かった。加古川は身近な所に自然と共生出来るところが沢山あり、プロモーションすることで加古川市の魅力を引きだしていけると感じた。ターゲットの絞り込みも効果的で良かった。という意見があった。

足立ゼミは、政策企画課(スマートシティ)様に「起業家の町「加古川」」を提案した。コワーキングという、スペースを共有しながら仕事をする共働ワークスタイルを推進し、起業家の数増や下げ、かつ交流を促進する。これによって起業家を増やして街の賑わいに繋げようという提案であった。

講評では、コロナの影響もあり生活様式や働き方が変わって来ている中で、理に適った提案であったように思う。実際の起業家からのご意見も、参考になる研究成果だったと思う。という意見があった。

西村ゼミは、政策企画課(スマートシティ)様に「マイ散歩ブレイリスト」を提案した。加古川の街中のお散歩コースを共有出来る機能を加古川市のアプリケーションに組み込む提案で、街の魅力発見や人との繋がりの強化、健康増進などを狙ったものであった。



講評では、非常にハキハキと

した素晴らしい発表だった。アンケートもしっかりと研究されていて非常に素晴らしいと思った。という意見があった。

本年度の最優秀賞は西村ゼミ、優秀賞は岳ゼミであった。

当会が独自の基準で審査を行う東播磨甲南会賞は、厳正なる審査の結果、「生ごみから始まる循環型社会×コンポストタウン加古川育成プロジェクト」を提案した岡村チームの皆さんに授与させていただいた。審査では特に、ブレゼンの良さ、実現可能性の高さ、現地の方々との緊密な連携などが高く評価された。

どのチームも非常にレベルが高かったため、役員会で順位付けを行う際には、社会人を相手にするような辛口の採点を行う必要があった。特に各チームのプレゼン能力向上には目を見張るものがあり、今後にも楽しみにしている。

【今後の課題】

加古川「知」を結ぶプロジェクトにおいて、同窓会の担う役割は非常に大きくなってきている。大学からの要請もあり、学生が自分達の未来像を想像出来るように、交流が求められている。彼らよりも先に人生を歩んだ同窓生として、少しでも彼らに何かを与えられるよう、これからも協力していきたい。

会員企業紹介

企業訪問100回目の今回は、 行政書士澤本事務所の澤本 武司さんにお話を伺いました。

大学時代はどんな学生生活を過ごされましたか？

学生時代は野口町に住んでいて、「R」で通っていました。理学部で生物学科だったので、主にいたのは理学部棟です。クラブはボート部に所属していて、練習は大阪桜ノ宮でやっていました。
理系なので3年生から実験が始まり、クラブの時間が取れなくてマネージャーのような立ち位置になったのですが、4年生になると更に両立が難しくなりました。ゼミとクラブのどちらを取るかという選択になりました。高校の時はひたすら理系方面にいきたいという思いが強かったものの、大学生活でOB先輩の進路を見て、理系で生計を立てていくというイメージが想像できず、クラブ活動に打ち込んでいくことを選択しました。

行政書士資格取得へのきっかけ、開業までの苦労はどのようなことがありましたか。

卒業後は文系就職して大阪の商社で3年間営業職を務めたのですが、金沢へ転勤になったところに行政書士になろうかと考えだしたんです。

後に恩師となる行政書士の先生が姫路にいて、商工会議所の講座を受けたのですが、その先生との出会いが資格取得のきっかけになりました。当時、行政書士は知名度が現在ほど無く、職業として自活できるのか自信が無かったのですが、頑張ったこの先生の域まで達すれば大丈夫だという確信がありました。そこから仕事を辞めて勉強を始め、1年ほどとにかく勉強に集中して1発で資格が取得しました。

行政書士は業務内容が非常に広いこともあって、始めたときは自分が得意とする専門分野を特に定めず、依頼のあった仕事はえり好みせずに取り組

許認可申請に笑顔でサポートします

みきました。

その中でも、国際結婚の案件が印象に残っています。まだ時代が時代だったこともあって、中国の女性を日本人のプロローカーがビザの為に結婚審査していたのをたまに受けてしまったことがありました。手続きは全て問題無いのに入国管理局に駄目だと言われ、そういう驚きの説明を受けました。日本人の配偶者ビザだと中国人妻はどんな仕事でも就労可能になるので、当時はそういうものも多かったようです。

最終的には、仕事をこなす内にだんだんと得意分野が絞られていき、建設業の許可申請に寄っていききました。

行政書士の魅力を教えてください。

行政書士の業務は許認可を取り扱うので、自分で出来ない許可申請などを代行させていただくのですが、許認可が取れるというのは申請者にとっては大きな付加価値であり、それをサポートすることが出来たときに仕事としての達成感ややりがいを感じます。

東播磨甲南会の活動に参加して良かったと思うことは何でしょうか。

最初は同窓生のところに顔を出すと営業の一環でした。
私自身はあんまりガツガツ営業するタイプではないのですが、会員との交流をしている内に、信用していただいた方からお声をかけていただいたこともあります。同じ学校を卒業しており距離が近いというのがあると思います。若いサラリーマンの方でも少し余裕があれば、こういう会に年1回でも来てもらったほうが良いと思います。

東播磨甲南会の活動について、こうしたら良いという事があれば。

特にありません。人それぞれだと思うのですが、私は年1回でも2回でも会の質が良ければそれで良いと思いますので、内容の密度を重視しています。

地域に住んでいる卒業生に東播磨甲南会への参加を呼び掛けるとすれば。

個人差があっても本当に人それぞれだと思いますが、それぞれ楽しみ方を自分で見つけて欲しいです。同じ学部の人や、同窓年の人がいた等々。今は「田」などもあって気軽にアクセスできますので、自分でアンテナを張っていただいで、どんな感じの集まりなのかご覧いただき、合いそうならご参加いただければと思います。我々の方から上手く楽しそうな情報を出せて伝えられておれば良いのですが。

今後の抱負について教えてください。

今後行政の手続きもオンライン化が進んでいくので、それについていかなないと仕事が出来なくなっていくというのがありますね。

一般の方からしたら電子申請は結構ハードルが高い印象があります。オンラインが厳しい方はぜひお気軽にご相談にお越しください。何かお困りごとがあれば、敷居が高いと思わず電話でもなんでも是非どうぞ。

本日はありがとうございました。



行政書士澤本事務所のHPはこちら

<https://sawamoto.gyosei.or.jp/>

